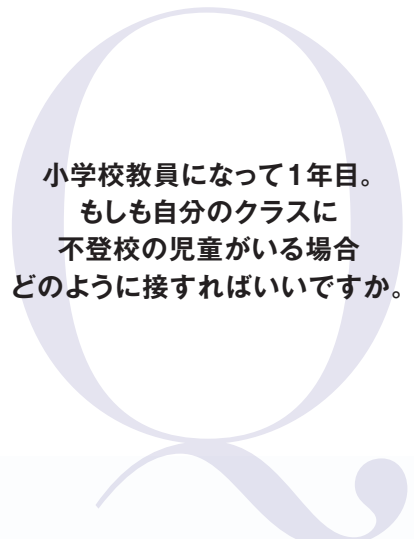




まつもと つよし  
**松本 剛**

生徒指導実践開発コース教授



小学校教員になって1年目。  
もしも自分のクラスに  
不登校の児童がいる場合  
どのように接すればいいですか。

**不** 登校は小学校高学年から増え始め、中学生で急増します。これは青年前期に見られる自分意識への志向と関連が深いものであると考えられます。同時に、小学校生活の中にその萌芽となる行動が見られることも多いようです。中学校には小学校と異なる教育システムがあり、それが影響している場合もあります。個々の背景を捉えて、必要に応じてスクールカウンセラーや医師などと連携しながら関わっていくことが望まれます。

学校の様子を家庭でよく話していた子どもが、思春期に入ったところから全く話さなくなる場合があります。それまでのように無邪気に自分が感じたままを人に伝えることが難しくなるのは、他者の立場に立てるようになり、自分の思い

をそのまま伝えると、それを聞いた人をどのような気持ちにさせるかが実感を伴って分かるようになるからだと考えられます。

この時期の子どもたちには、自分自身をもう一人の自分と評価するような感覚が生まれます。時には、他者(特に大人)から言われることを素直に認められないような感覚を持つこともあります。自分自身との関係をどのようにつくっていくかを試行錯誤し始めた児童生徒にとって、他者からのいわゆる「正しい」意見には、「そんなこと自分でも分かっている」と反論したくなるようなものだと云えます。また、自分でも自分が本当はどう思っているのかを言葉にできないでいることも多いようです。



キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

兵庫県吹奏楽コンクールで  
吹奏楽部が銀賞



8月12日に姫路市文化センターで開催され、大学部門には県内5大学が出演。兵教大吹奏楽部は祝典行進曲「ライジング・サン」と「梁塵秘抄～熊野古道の幻想～」の2曲を演奏した。他大学が外部から有名指導者を迎えたり、大学教員を指揮者に据えたりしている中、学生指揮者を中心としたチームワークの良さと、若々しい演奏ぶりが高く評価された。

第33回  
大学院同窓会九州大会を開催

8月3日、4日の両日、福岡市内で開催。北は岩手県から南は宮城県まで18都府県の修了生や在学生、大学関係者など105人が参加した。3日は教育実践研究活動等の表彰や加治佐哲也学長の基調講演、実践研究3本の発表を行った。4日は太宰府を訪ねて水城跡や政庁跡、天満宮、九州国立博物館を見学した。



学部生の笹本しずかさんが  
西宮市展でダブル受賞



学校教育学部芸術系コース(美術)4年の笹本しずかさんが、洋画部門で西宮芸術文化協会賞と若手奨励賞を受賞。第63回を迎えた今年には全国各地から洋画や日本画、彫塑・立体など7部門に604点が寄せられた。受賞作「華の話」(写真)は得意の水彩画で、初応募にして初受賞の快挙を遂げた。